

みち

創り・使い・暮らす

みち研究会監修/
道路空間高度化機構編ISBN978-4-7655-1720-1
A5判・180頁 本体2000円＋税

円滑な自動車交通の全国展開を基本的な使命としてきた道路整備。そして、我が国の道路は、自動車の通路として合理的、効率的に整備されてきました。しかし、徒歩や自転車を主人公にした道路や、都市の貴重な空間としての道路、地域ごと街ごとの特色や個性を反映した道路、自然景観と調和した道路など、多様な観点から、道路の機能・役割を再認識して整備を進めていくことが大切ではないでしょうか。本書では、そんな道路整備のあり方を探ってみました。

シェアする道路

ドイツの活力ある地域づくり戦略

エルファディング・ズザンネ・
浅野光行・卯月盛夫著ISBN978-4-7655-1795-9
A5判・228頁 本体2800円＋税

近年、歩道上での歩行者と自転車の衝突事故が増加しているが、本書は自転車道先進のドイツの政策、諸都市の事例を挙げ、道路空間の再整備（歩行者の空間・自転車の空間・自動車の空間）についてまとめたもの。単なる道路空間の整備をまとめたにとどまらず、地域の特色を活かしたまちづくり・道路整備についても紹介した。交通の専門家や研究者だけでなく、行政や議員の方々、そしてまちづくりに関心を持つ市民、NPO、学生の方々にもオススメの一冊。

成熟都市の交通空間

その使い方と更新の新たな方向

浅野光行著

ISBN978-4-7655-1811-6
A5判・178頁 本体2800円＋税

今後の都市地域は、変化を見せながらも、その速度は緩やかなもので、確実に成熟社会へと向かっていく。本書は、そのことを認識したうえで、成熟した都市地域の都市づくりと交通空間の整備のあり方を明らかにしようとするものである。大切なことは、これから更新の時代を迎える都市の道路や鉄道の再整備に合わせ、成熟都市に相応しい空間を都市づくりの中で創出することである。

続 道のバリアフリー

コミュニティ・ゾーンをつくる

鈴木敏著

ISBN4-7655-1673-3
A5判・206頁 本体2800円＋税

『道のバリアフリー—安心して歩くために』の続編。高齢者や身体の不自由な人たちが道を移動するときどのような不自由があるのか個々に見たうえで、道のバリアを取り除く方法を解説。そして、生活街区（ゾーン）内で自動車の走行を制限してゾーン内の安全性や快適性を確保するコミュニティ・ゾーンを提案する。コミュニティ・ゾーンをつくるには、歩行者優先でかつ歩者共存道路を中心としたゾーンの中の道と、ゾーンの周囲を取り囲み自動車優先で歩者分離構造の幹線道路の違いをはっきり区別して整備することが必要で、幹線道路の車道、緩衝帯、自転車道、歩道の構造改修、ゾーン入口に設ける諸施設、ゾーン内の道を安全にする工夫等、さまざまな手法を具体的に述べる。

道のバリアフリー

安心して歩くために

鈴木敏著

ISBN4-7655-1638-5
A5判・190頁 本体2800円＋税

道のバリアフリー化には、まず歩行者が安心して歩ける歩道の実現が前提となる。本書は、歩行者が車の危険を感じずに安心して歩ける道とはどのようなものか、バリアフリーな道とはいかなるものかを考察し、その実現に向けて、すでに実施されつつある試みや施策を紹介するとともに、今後の方向を論じる書である。

交通の時間価値の理論と実際

加藤浩徳編著

ISBN978-4-7655-1802-4
A5判・298頁 本体4000円＋税

近年、我が国では、財政状況が逼迫する中、効率的な公共投資に対する社会的要請が高まりつつある。道路事業において、交通時間短縮による便益は、全便益のかかなりの割合を占めており、それを計測する上で、交通の時間価値を適切に設定することが不可欠である。本書は、主に道路交通を対象として、交通の時間価値の理論と実際を解説するものである。2012年10月、道路政策の質向上に資する技術研究開発・優秀技術研究開発賞（国土交通省）、2014年10月、日本交通学会賞（著書の部）、2014年11月、米谷・佐佐木賞（研究部門）を受賞。

みんなで作る美しい道

鈴木忠義編著／道路緑化保全協会編

ISBN978-4-7655-1719-5
A5判・124頁 本体1800円＋税

道は、経済社会の基であると同時に、文化社会の基であるはずである。人々は、その国の道を通ってまず知覚し、ひとに会い、ここを通じ、理性の力でその国を評価している。もの（道）・こと（人）・ところ（心）により、その国の印象は決定づけられる。ものは道そのものである。ことは道の使われ方である。ここはその結果、安全・快適であり道に愛情や感動を懐くことである。本書はまず人間生存のため、道とのかかわりを示した。次に様々な目的をもった道のつくり方、その使い方を改めて認識する機会とした。これらの目的は、今後の道づくり、使い方を考えていくことである。すなわち道づくりの思想の大切なことを意識し、喚起するきっかけとなればと願ったものである。

〈誰だって街を歩きたい〉道のユニバーサルデザイン

鈴木敏著

ISBN4-7655-1707-1
A5判・176頁 本体2400円＋税

身体の不自由な人や高齢者など特定の人のためのバリアフリーでなく、誰もが気持ちよく歩ける道のユニバーサルデザインの実現方法を探る。まちづくり・道づくりに取り組む行政関係者や一般市民が知っておくべき道の構成・構造・法令等の基礎知識をやさしく解説しながら、生活エリア内の街路や幹線街路の歩道のあり方を考える。歩行者が安心・安全・快適に歩ける生活街路と車両がスムーズに走れる幹線道路を分たり、幹線街路に緩衝帯を設けて駐車・待機車線を納める等々の方法も提案する。

道のはなしII

武部健一著

ISBN4-7655-4378-1
B6判・260頁 本体1700円＋税

本書は、現代の「道」に技術者として関わる著者が、道の文化、技術を軸に、古今東西の「道のはなし」のあれこれをおもしろく語っている。

道のはなしI

武部健一著

ISBN4-7655-4377-3
B6判・260頁 本体1700円＋税

「なぜ高速道路は国分寺跡の近くを通るのか？ 土木技術の粋を集めた高速道路の路線は、近世の五街道よりむしろ奈良・平安の古代官道のルートに近い」。本書は、高速道路の古代回帰の問題を導入部として、現代の「道」に技術者として関わる著者が、道の歴史を軸に、古今東西の「道のはなし」を語る。